

1. 科目名(単位数)	国際福祉特殊講義 (4単位)	3. 科目番号	SSMP7207
2. 授業担当教員	【池袋】田中 喜美子 【名古屋】伊東 真理子		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、セミナー	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件なし		
7. 講義概要	<p>比較とは、多文化との相違を発見し、理解することであるが、それを基礎に異質性の認識と受容へと導かれるのである。比較には、相違性と相似性を明らかにするための批判、評価を伴うため、異質性への信頼が必要になる。ところが、国際比較の困難性は、同一基準が設定できなく、他国に対する印象、実感という情緒的感情面を含めて基準が多様であるからである。この国際比較の多様性のため、比較の観点が量的な観点から、生活構造、文化、歴史、宗教、価値観という質的側面が重視されるのである。</p> <p>本講義では 社会福祉の実態や現状と問題点や実践活動について、代表的な西洋諸国と東南アジア諸国との国際比較の方法について探求する。</p> <p>具体的には、対象者別(児童・自閉症児・知的障害児・認知症高齢者・退職した健康な高齢者・精神障害者・依存症者・ひとり親・等)、問題別(医療・虐待・貧困・差別・DV・不登校・保育・失業と就労・校内暴力やいじめ等)、制度・政策別(介護保険制度・生活保護制度・公的扶助・医療保険制度)、分野別(医療ソーシャルワーク・司法ソーシャルワーク・学校ソーシャルワーク等)に分けて、それぞれのトピックスをとりあげて、世界の福祉政策と福祉実践について比較しながら分析・考察する。</p>		
8. 学習目標	<p>① 福祉に関する国際的視点と同時にその視点の客観化を通して各国の状況に対する新たな事実や知見を発見する。</p> <p>② 社会や文化や時代を超えた共通の特性と固有の特性とを弁別して両者が分析できる。</p> <p>③ 異なる国を比較しながら分析・研究するとき、妥当性・信頼性ある調査研究の方法論を探求する。</p> <p>④ 現代において世界的に共通の社会問題や家族問題を取り上げ、社会福祉援助技術を含んだ対人サービスの方法について探求する。</p>		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>1. 高齢者対象の介護政策や制度の特徴と方法(日本を含む世界3カ国以上)を比較・分析する。</p> <p>2. 精神保健福祉政策や制度の特徴と方法(日本を含む世界3カ国以上)を比較・分析する。 (1と2番課題の比較・分析の枠組み:①各国の社会的背景 ②課題の内容 ③3カ国の共通点 ④3カ国の相違点 ⑤比較・分析を通して学んだ点と本人の意見)</p> <p>3. 依存症問題を取り上げ、(日本を含む世界3カ国以上)比較・分析する。</p> <p>4. 虐待問題を取り上げ(日本を含む世界3カ国以上)比較・分析する。 (3と4番課題の比較・分析の枠組み:①その問題の社会的背景と現況 ②国レベルの政策的なアプローチ ③具体的な処遇プログラム(社会福祉援助方法あるいは臨床的なことを中心とする) ④比較・分析を通して学んだ点と本人の意見)</p> <p>これら4つの課題の中、2つの課題を選択し、提出する。世界3か国の中には自分の国を必ず入れること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】レジュメ・資料</p> <p>【参考文献】</p> <p>阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。</p> <p>仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。</p> <p>仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。</p> <p>仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③、イギリス④、日本⑦、アメリカ⑨』旬報社。</p> <p>久塚純一・岡沢憲英『世界の福祉』早稲田大学出版部。</p> <p>中島恒雄『21世紀の高齢者福祉』ミネルバ書房。</p> <p>洪金子『韓国の社会福祉発達史』蛍雪出版社。</p> <p>森田洋司『いじめの国際比較』金子書房。</p> <p>Lyons, Karen(1999): International social work themes and perspectives, Aldersyt, U. Kand Brookfield, Vt.: Ashgate Publishing</p> <p>Goodman, Roger ; White, Gordon, and Kwon, Huck-ju (2000) 、The East Asian, Welfare model : Welfare orientation and the state, London and NY : Routledge.</p> <p>Triandis, H. C. (1995). Individualism and collectivism. Boulder, CO: Westview.</p> <p>Lum, D. (Ed.). (2010). Culturally competent practice: A framework for understanding diverse groups &amp; justice issues. Pacific Grove, CA: Brooks/Cole.</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>国際社会福祉に関する小論文1件</p> <p>授業の中での発表やディスカッションへの参加</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業の中での発表</p> <p>国際社会福祉の比較に関する小論文</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>○ 大学院学則を遵守すること。</p> <p>○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するため努力すること。</p> <p>○ 学際的・国際的感覚を涵養すること。</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～5. テーマ	比較社会福祉学の視点と方法、社会福祉サービスの比較、社会福祉専門職の国際比較		
【学習の目標】	<p>1. 国際社会福祉研究の歴史的・理論的背景を理解する。</p> <p>2. 国際比較研究の前提と比較の焦点について理解する。サービス比較の困難性について理解し、サービス比較では、誰を、何をどのように比較するのかについて理解する。</p>		
【学習の内容】	比較の概念と比較することの意義、比較研究の歴史的・理論的背景、国際比較の困難性、国際比較の基準の多様性、多様な国際比較の観点、サービス比較と比較の対象及び比較の方法などについて調べ、理解する。		
【キーワード】	比較社会福祉研究、国際比較、相違性、相似性、比較サービス、社会福祉専門職		
【学習の課題】	1. 国際比較の研究には、相違性と相似性を明らかにしながら異質性への受容と信頼が求められるということに対す		

	<p>る理解をする。</p> <p>2. 国際社会福祉研究の歴史的・理論的背景、比較の視点として福祉に関する国際的視点と相対的視点を持つ。</p> <p>3. サービス比較の論点の中、政策・制度・对人的援助の投入と算出を中心とする効果・効率性について考える。</p> <p><b>【参考文献】</b> 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 Lyons, Karen(1999): International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt. : Ashgate Publishing Triandis, H. C. (1995). Individualism and collectivism. Boulder, CO: Westview.</p>
6～10.テーマ	<p>アメリカ・ドイツ・イギリス・スウェーデン・日本およびその他の東南アジア諸国の介護保険制度・政策の比較、介護問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較(特に、高齢者を対象とするケアマネジメントを中心に)</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 1. アメリカ・ドイツ・イギリス・スウェーデン・日本およびその他の東南アジア諸国の介護保険制度を学習し、日本の介護保険制度との違いや共通点を比較・分析する。</p> <p>2. 介護問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p>3. ケアマネジメントシステムとケアプランのような介入方法を比較してみることによって比較・分析の枠組みが立てられる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 1. ドイツの介護保険制度の概要、日本の介護保険制度の概要、そしてそれぞれの特徴と相違点についてわかる。</p> <p>2. 介護を必要とする認知症高齢者と彼を介護する家族に対してドイツと日本の介入方法がどう違うか、具体的なケースをもって社会福祉援助技術における世界諸国のケアマネジメントシステムと日本のケアマネジメントシステム、各国のケアプランと日本のケアプランを比較・分析してみる。</p> <p><b>【キーワード】</b> 介護扶助、介護保険、ケアマネジメント、ケアプラン</p> <p><b>【学習の課題】</b> ・ドイツの介護扶助と日本の介護保険の特徴と相違点を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際福祉制度政策及び援助技術などを比較・分析するときの枠組みを立ててみる。</li> <li>・介護問題を持っている認知症高齢者とその家族の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</li> <li>・理想的なケアマネジメントシステムに対する構造を考える。</li> <li>・同じ目的で出来た制度・政策であっても、各国の社会的背景、文化、価値観などによって相違点が出るということを理解する</li> </ul> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣、2000年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。 中央大学経済研究所編『社会保障と生活最低限—国際動向を踏まえて—』中央大学研究双書。</p>
11～15.テーマ	<p>アメリカ・イギリス・日本の医療保険制度・政策の比較、医療問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 1. イギリスにおけるコミュニティケアと国民保健サービス(National Health Service, 以下NHS)システムを理解する。</p> <p>2. 医療問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p>3. 病院のインテークと介入方法を統合的に考え、自分なりの介入を考えてみる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 1. 入院患者、退院患者、患者家族という三者を対象の中心として、予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を検討する。</p> <p>2. 今のイギリスのNHSも日本の医療保険政策も短時間で急に出来上がったものでなく、長い時間と多くの努力をかけて進歩してきたものであるが、時代の要求に応じてさらに改革を重ねていかなければならないということを理解する。</p> <p>3. 医療サービスを市民の確実な権利として定着させるために、有効なアドボカシー理論に対する知識を深める。</p> <p>4. 高齢社会に対応するコミュニティケアと保健医療改革、イギリスのNHS改革、病院トラスト、患者憲章、慢性疾患を持っている患者や家族を援助するには地域社会のもつ資源の発掘、新しい資源の開発と情報の提供、ボランティアの活用などが必要であるため、コミュニティ理論に関する知識を深めることが必要である。</p> <p><b>【キーワード】</b> 競争原理の導入、第一線の重視、医療行為の制約、コミュニティケア、保険医療改革、国民保健サービス</p> <p><b>【学習の課題】</b> ・高齢社会に対応するための地域・地方自治体の責任・機能の変化、サービスレベルの変化、供給の多元化、利用者の権利擁護などの世界的動きや変化過程を探求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療問題を持っている入院患者、退院患者、患者家族の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</li> </ul> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉イギリス④』旬報社。</p>
16～20.テーマ	<p>アメリカ・イギリス・日本の精神保健制度・政策の比較、精神保健の問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較(特に、依存(中毒)症者に対する援助を中心に)</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 1. アメリカと日本の地域社会を基盤とする精神保健制度・政策を比較・分析する。</p> <p>2. 精神保健問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 1. アメリカと日本における医療支出の改善・抑制対策</p> <p>2. 地域を中心とするメンタルヘルスサービス(CBR)の内容</p> <p>3. アメリカの精神保健制度、特に統合失調症とホモセックス政策が成功した根本的な理由は何かを探求し、それに関し日本ではどのようなアプローチが可能であるかを発展的に考える。</p> <p>4. 精神的疾患を持つ入院患者、退院患者、患者家族に予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に検討する。</p> <p>5. 精神疾患を持っている患者や家族を援助するには地域社会のもつ資源の発掘、新しい資源の開発と情報の提供、ボランティアの活用以外に、地域住民の理解と協力がとても重要であるため、生態システム理論やネットワークなどに関する知識を深める必要がある。</p> <p><b>【キーワード】</b> Mental Health, CBR, 精神疾患、依存症、共依存(Co-Dependency)</p>

	<p><b>【学習の課題】</b> ・アメリカと日本の国や地方自治体レベルの精神保健制度・政策のシステムとその内容において相違点と共通点を探求する。</p> <p>・精神的疾患を持つ入院患者、退院患者、患者家族の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アメリカ⑨』旬報社。 斎藤学『嗜癖する社会』誠心書房。</p>
21～25.テーマ	アメリカ・イギリス・日本の生活保護制度・政策の比較、生計問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較(特に、ホームレスに対する援助を中心に)
	<p><b>【学習の目標】</b> 1. アメリカと日本の国民基礎生活保障制度を比較・分析する。 2. 生計問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 1. 国民基礎生活保障制度の需給資格と給与内容、死角地帯にいる貧困者のための安全網の確保、自活支援事業 2. 豊かな国であっても、ホームレスが存在する根本的な原因が何かを探求する。 3. 不況でリストラされた親とその家族の予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に検討する。 4. ホームレスと生計問題を持っている家族を援助するのに有効な貧困理論に関する知識を深める。</p> <p><b>【キーワード】</b> 国民基礎生活保障制度、安全網、自活支援、ホームレス、コトソンネ、相互援助、自立</p> <p><b>【学習の課題】</b> ・アメリカの国民基礎生活保障法と日本の生活保護法の内容を比較・分析する作業を通して、生活保障政策における両国の特徴を理解する。</p> <p>・ホームレスに予想される問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③』旬報社。 Goodman, Roger(2000); White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model : Welfare orientalism and the state, London and N. Y. : Routledge.</p>
26～30.テーマ	アメリカ・ドイツ・日本およびその他東南アジア諸国の保育制度・政策やいじめ対策の比較、一人っ子政策と保育政策、いじめの問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較(特に、いじめに対する援助を中心に)、児童虐待問題あるいはDV問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較
	<p><b>【学習の目標】</b> 1. 中国の一人っ子政策と日本の保育政策とを比較・分析する。 2. いじめ問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。 3. 児童虐待問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。 4. DV問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 1. 一人っ子の問題、一人っ子の保育サービスで重点を置くべき点、いじめという問題行動、いじめの性格、社会と人間関係への影響、各国の教育制度との関係、いじめ問題と対策としてのスクールソーシャルワークを理解する。 2. いじめの加害者や被害者、その家族と社会に予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に検討する。 3. 中国の一人っ子政策の背景を理解すると同時に、どんなにいい目的と目標を持って立てた政策であっても、その利点もあれば、ディスアドバンテージもあるということをあらかじめ予想しながら政策を作らなければならないことに留意する。 4. いじめ問題を持っている生徒や家族を援助するのに有効な社会福祉援助技術のスクールソーシャルワーク理論に関する知識を深める。 5. 虐待の概念、原因、その影響、虐待理論、愛着障害、トラウマ、対処方法などを学習・研究する。 6. DV概念・原因・本人と子どもへの影響・DV被害者、DV加害者、DV法律と司法システム、DV予防・防止のためのプロトコルなどに対する知識と処遇方法 7. 虐待問題を理解し、その問題を持っている人とサバイバー、そして家族を援助するのに有効な、愛着理論やトラウマに関する知識を深める。 8. DV問題を理解し、DVの被害者と加害者そして彼らの子どもを援助するのに有効な家族療法に関する知識を深める。</p> <p><b>【キーワード】</b> 一人っ子、保育サービス、いじめ、加害者と被害者、スクールソーシャルワーク、いじめ、加害者のシステム、被害者のシステム、虐待、ネグレクト、サバイバー、愛着障害、トラウマ、DV (Domestic Violence)、DV被害者、DV加害者、DV法律、DV予防・防止のためのプロトコル</p> <p><b>【学習の課題】</b> ・中国の一人っ子政策に比べ、日本の少子化の根本的な原因を探求し、自分が少子化を止める政策を作るとすれば、どんなことが出来るであろうかと具体的に考えてみる。</p> <p>・いじめ問題を持っている加害者と加害者の家族、被害者と被害者の家族の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p>・児童虐待問題を持っている人とサバイバー、加害者としての親の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p>・DV問題を持っている加害者と被害者そして彼らの子どもの中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③』旬報社。 洪金子『韓国の社会福祉発達史』蛍雪出版社。 Goodman, Roger(2000); White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model : Welfare orientalism and the state, London and N. Y. : Routledge. 森田洋司『いじめの国際比較』金子書房。 洪金子『生徒間暴力に対するスクールソーシャルワークの機能と介入方法－生態システム的アプローチを中心に』日本女子大学社会福祉学科学会誌、2003年。 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣、2000年。 鈴木研一『世界の女性と暴力』明石書店。 洪金子、関口恵美、大橋利雄『DVに対する警察の対処に関する研究』日米高齢者保健福祉学会、2006年。</p>

